

会 議 錄

会議名 (審議会等名)	第4回中央地区まちづくり会議					
事務局 (担当課)	中央区役所 中央6地区まちづくりセンター 電話042-707-7049(直通)					
開催日時	令和7年11月27日(木) 19時00分~21時00分					
開催場所	中央公民館大会議室					
出席者	委 員	14人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	3人(中央6地区まちづくりセンター所長ほか2人)				
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人			
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 連絡事項</p> <p>(1) 市立児童クラブの課題や今後の取組について</p> <p>(2) 相模原市のごみの現状と課題について</p> <p>(3) 地域活性化事業交付金の改正について</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 中央地区の課題に対する取組について</p> <p>4 閉 会</p>					

議事の要旨

主な内容は次の通り。(○は委員の発言、◎は担当課の発言)

1 開会

鈴木会長よりあいさつをした。

2 連絡事項

(1) 市立児童クラブの課題や今後の取組について

放課後児童対策課から標記について説明された。

〈主な意見・質疑〉

○中央地区の現状を教えてほしい。

⇒◎中央地区内の中央小学校、富士見小学校、弥栄小学校については、人員・場所ともに不足している施設はなく、現在、待機児童も発生していない。中央小学校は、児童クラブの他にさがみっ子クラブも実施しているため、人員については余裕がある訳ではない。富士見小学校は、現状、富士見こどもセンター内のクラブ室だけで実施しているが、利用人数が増えた場合などは、小学校内の余裕教室等を借用し、児童クラブ室として利用する予定である。弥栄小学校は、今後、学校再編の関係で児童クラブを利用する子どもたちが増えた場合は、現在のクラブ室だけでは場所が足りなくなる懸念がある。

中央地区も含め、今後、市内全域で児童クラブの受入れ年齢を6年生まで拡大することを目指しているため、これまで以上に職員の確保が課題となっている。

(2) 相模原市のごみの現状と課題について

廃棄物政策課、資源循環推進課、清掃施設課から標記について説明された。

〈主な意見・質疑〉

○現在の最終処分場がいっぱいにならどうするのか。

⇒◎次期の最終処分場の建設を計画しているため、まずはそちらの活用が考えられる。仮にそこもいっぱいになりどこにも埋立てられなくなった時は、灰の民間資源化なども検討していきたいと考えている。ただ、資源化するためには費用が掛かるので、そこが課題である。

○他市の最終処分場の事例はどうなっているのか。

⇒◎町田市や八王子市は多摩地域広域で日の出町にある二ツ塚最終処分場に焼却灰を持ち込んでいる。当該施設は、埋立地の他にセメント工場が併設されており、

灰をすべてセメントにする資源化を行っており、現在埋立てゼロが達成されている。横浜市や川崎市は海に最終処分場を建設し埋立てを行っている。

○ごみの有料化は有効だと思うが、周辺自治体の有料化の状況はどうなっているか。
また、相模原市の検討状況を教えてほしい。

⇒○近隣では町田市や八王子市は有料化を実施している。相模原市も検討自体はかなり前から進めていて、審議会や市民アンケートでの意見を参考に今後も検討していくが、現時点では実施するしないを決定しているわけではない。

○一番大事なのは本市のごみの現状と何をしてほしいのかを市民に伝えることだと思う。まちづくり会議の委員は問題意識を持っている人たちなので真剣に聞き考えるが、そうでない人の方が圧倒的に多い。そのような人たちに対してどのように伝えていくか戦略的に考えるべきだと思う。そうでなければいつまでもこの課題は解決しない。

○有料化にした場合にどのような効果がどの程度あるのかをもっと PR すると良いのではないか。

(3) 地域活性化事業交付金の改正について

事務局から標記交付金の令和8年度からの改正点について説明した。

〈主な意見・質疑〉

特になし。

3 議題

(1) 中央地区の課題に対する取組について

事務局から前回の検討結果と今回のグループワークの方法について説明し、3班に分かれてグループワークを行った。

【ワーキング進め方】

- ①前回グループワークで複数抽出した問題のうち、本日検討する問題を1つ選ぶ
- ②選択した問題が起きている原因を分析する
- ③問題を解決するための課題を設定する
- ④具体的な解決策を考える

⇒各班5分で発表

【グループワーク結果】

参考：令和7年度テーマ「子どもの安全対策と地域の関わり方」
(このうち、交通安全と防犯の分野に限定)

《1班》

選択した問題	交通安全・防犯に対する教育が少ない（共通）
原因	<ul style="list-style-type: none">・学校は教育しているが、家庭内については親の関心が少なく、教育がされていない・地域関係が希薄なため、地域住民からの声かけも少ない
課題	<ul style="list-style-type: none">・子どもに交通安全・防犯に関する意識を持たせる
解決策	<ul style="list-style-type: none">・家庭内の会話を増やすことで、情報共有や教育を行う・交通ルールを子どもに理解させる・地域としては挨拶の重要性をPRする

《2班》

選択した問題	交通ルールを知らない、知っていても守らない（交通安全）
原因	<ul style="list-style-type: none">・交通ルールが変わっても教えていない・子どもたち自身の交通安全に対する意識が低い
課題	交通ルールを教える場所、機会を作る
解決策	<ul style="list-style-type: none">・親も参加できる地域主催の交通安全教室を開催・交通安全に関する資料の作成・配布・交通安全動画を作成し子どもたちに教える

« 3 班 »

選択した問題	地域として子どもの面倒を見る意識が薄れている（防犯）
原因	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人と子どもが触れ合う機会が少ない ・共働き世帯の増加に伴い学童保育を利用する児童が増えたため、放課後に子どもを見かけることが減った ・子ども同士がオンラインゲームや SNS でつながっているため外で遊ぶことがなくなり、結果として地域で子どもを見かけなくなった
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大人と子どもが触れ合う機会を作る ・子どもや高齢者が外で活動する機会を作る
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でイベント等を開催する ・高齢者が自身の経験を活かした内容（昔遊び等）を子どもや保護者に教え、逆に子どもたちの若い世代が高齢者にスマートフォンの使い方を教えるなど、交流する機会を作る

最後に、鈴木会長から市の「ながら見守り活動」を実施する「ながら見守り活動者」への登録及び地区青少年健全育成協議会、市安全・安心まちづくり推進協議会により 1 月に実施される見守り活動への参加を提案した。また、ワーキングでも問題とされた、地域の大人と子どもの関係性の希薄化の解消策として、子どもたちの安全を守ることを目的とした事業の実施及び見守り活動の促進事業として、活動団体を結成し、地域活性化事業交付金の利用申請をすることについて役員会で申請内容を精査・承認することを提案し了承された。

4 閉 会

鈴木会長により閉会。

令和7年度 中央地区まちづくり会議委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	鈴木 泰信	中央地区自治会連合会	会 長	出席
2	館脇 智幸	中央地区自治会連合会		出席
3	鳥海 千秋	中央地区社会福祉協議会	副会長	欠席
4	大橋 隆	中央地区民生委員児童委員協議会		出席
5	淺野 耕市	中央地区老人クラブ連合会		欠席
6	岡野 博	中央地区青少年健全育成協議会		出席
7	松田 正則	中央地区健康づくり普及員協議会		出席
8	鍋倉 薫	中央地区防犯協会		出席
9	後藤 和人	相模原交通安全協会		出席
10	武田 守弘	中央地区連合自主防災隊		出席
11	齋藤 啓夫	中央小学校 PTA		欠席
12	岡野 智博	弥栄小学校 PTA		出席
13	齋藤 麻里亜	富士見小学校 PTA		出席
14	岡本 和茂	中央公民館	副会長	出席
15	浦上 裕史	中央地区内商店街		欠席
16	澤畔 正裕	中央地域包括支援センター		欠席
17	馬場 裕美	公募委員		出席
18	牛尾 良一	公募委員		出席
19	倉澤 良明	公募委員		出席